

## コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■事業名: いせ市民活動センター運営事業

■コーディネーター氏名・所属: 井田輝門・NPO 法人市民ネットワークすずかのぶどう

■ふりかえり会議開催年月日: 平成 17 年 3 月 3 日

### 1. 協働のプロセスについて意見

指定管理者制度導入による市民活動センター運営は県内初の事例である。

その経緯によると市民参加による検討委員会で市長に提言、行政側は制度導入のための条例整備と必要な役割分担のなかで本格稼働に入っている。

運営事業については両者とも殆ど毎日意見交換・検討・課題解決のための時間を共有できる環境にあることが伺えた。

### 2. 成果についての意見

成果については事業年度が終了していないので評価は後日との回答であったが、次年度以降についても同一指定管理者による運営が決まったことでもあり両者にとって大きな成果と思う。また市民活動センターの指定管理者制度導入は全国各地の注目を集め社会に与えたインパクトは大きかったと思う。

### 3. 課題・改善の整理とまとめ

両者にとって初めての運営事業で、9ヶ月の短期に成果をあげ、課題を解決し、次年度以降の業務委託の結論をださなければならないという大変な作業にたいし敬意を払います。

担当者同士・担当部署と団体間には課題解決・改善に日々取り組まれ、お互いの立場の違いを理解し協働する素地が出来上がった期間と位置付けできます。

むしろ次年度以降の長期運営についてはまだみえない課題があると思われます。そのためにも運営委員会の設置には賛成です。

### 4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

新しい形の運営事業の話を知り希望がもてました。

しかし事業をやった当事者しか協働の理解がえられないのが現実で同じ庁内の他の部署では初めからの繰り返しになることが多い。

また各市町村で協働にたいする温度差もある。

市民も行政も協働事業の事例を一つずつ積み重ねていくしかないものと思う。

## コーディネーターとしての事業に対する意見シート

- 事業名： 市民やNPOなどの団体からの協働テーマの募集(協働塾)
- コーディネーター氏名・所属： 服部則仁(みえきた市民活動センター)
- ふりかえり会議開催年月日： 平成17年3月3日

本事業は、伊勢市が設置した「いせ市民活動センター」を特定非営利活動法人いせコンビニネットが、平成16年7月1日から平成17年3月31日までの9ヶ月間、指定管理者として運営するというものです。

この公設民営型の市民活動センターの企画をつくりあげる過程ですが、平成13年度に、「市民活動の拠点が必要」との市民からはたらきかけを受け、平成14年度以降、行政が市民参加による市民活動センターについての検討を重ね、その内容もふまえ、平成15年にセンターを仮開設し、並行して行政内手続きを進め、平成16年7月に、指定管理者の運営による正式開設に至ったというものです。

### 1. 協働のプロセスについての意見

#### (企画立案期)

企画立案期の検討会議では、コーディネートや議事録の作成を市民が無償で行うなど、企画立案の費用負担が市民に偏っていました。また、行政内理解と市民の認識のズレと、市民と行政の意思決定の仕組みの違いから、市民と行政とのあいだにさまざまな齟齬もありました。そこから、企画立案期での「公の検討の場」のあり方について以下のことを思いました。

- (1) 必要なコストをどちらがどれだけ負担するかを、事前に明確にしておくよかったと思いました。
- (2) また、そこでの検討内容・提言と、実際に行政が行った意思決定との差異や齟齬について、「検討委員会の位置づけ」や「提言の取り扱い」について、事前に明確にしておくよかったと思いました。
- (3) また、リアルタイムの情報公開やキャンペーンを行うことで、より多くの人たちの関心を検討段階から持ってもらうことができたらよかったと思いました。といってもこれはとてもむずかしいのですが、もちろんそれらの負担や方法についても話し合った上でのことになります。

これらをまとめれば、市民からの提案を行政が受けとめる仕組みについて、費用負担や役割分担をどうするかという「システム化」の問題があるということです。今後、市民と行政との協働をいろいろな分野で進めるのであれば、「意思決定のしくみについて明らかにしておく」と、「市民からの提案を検討するコストは、市民が公共に参加する機会を保証するコストとする」ことを、行政制度に位置づけておくとういと思いました。

### (事業実施期)

センターを開設し運営している時期では、両者の間で頻繁な行き来があり、十分なコミュニケーションがとられています。その意味で両者がお互いの考え方やしくみを理解し合い、さまざまな工夫でこれまで運営されてきた自信を感じました。

一方で、目的や指針、ビジョンがあるとはいえ、当事者間のみでの了解でセンター運営をし続けてよいのかということも思いました。草創期はともかく、センターが一定の活動実績を積んだある時期には、利用者や第三者による活動の評価や多くの人たちの意見を反映していく取り組みをしたりそのような仕組みを設けることで、公共性の裏付けがより確かなものになっていくと思いました。

## 2. 成果についての意見

広報活動としては、それを得意とする他のNPOと連携するなど、情報提供はとてものがんばっています。とりあえず9ヶ月の短期ということもあり、次々に起こる目の前の問題や事業にバリバリに対応している現状がうかがえました。そのような状態でとてもたいへんだろうなと思いました。けれども、個別の事業の終了時に冷静な評価を行い次のステップに向かう「ふりかえり」の記録が残されていないのは残念なことでした。

公的な資金・資源を使っていることでもあり、多くの人たちが活用しやすい形で実際の事業の成果を公開し還元していくという視点が加わると、センター自体の認知もより広がっていくのではないかと思います。それにより、より多くの市民の声を背にして、より一層の公的資源の活用が可能になっていく土壌が培われるのではないかと思います。

### 3. 課題・改善の整理とまとめ

#### (財政力について)

特定非営利活動法人いせコンビニネットのこの事業はこれまでのところ黒字ということでした。赤字になれば担当理事が負担するという申し合わせもできているようで、責任の所在が明確になっていました。実際に、足りないものは持ち寄るなど工夫しており、それらの所有権や成果物の活用権などについても協約書で明確になっています。また、施設の利用料を運営者の収入にできるよう配慮されています。

しかし、実際に行政から支払われる助成金と委託費はたいへん少ないと思います。これは、囑託職員が運営した場合のコストを基準として、それより安価であるという行財政改革の一貫として費用を算出しているためだそうです。それは、NPOの専門性が契約価格に反映されていないということを意味します。また、公的資源を活用してNPOの自主収入をあげる道筋はたいへん狭く、それによって補えるものはごくわずかです。

短期的にはともかく中期的に見れば、専門性を発揮して所期の目的を達成するための活動を継続的に行うのは、現在の契約の形では無理があると思いました。特に、現状のままで担当者が交代すればまたはじめから信頼関係の作り直しをしなければならず、それでは時間的に間に合わないと思います。以下のふたつの対応策が必要だと思います。

- (1) 契約価格を上げる
- (2) 自主収入の増加を可能にするため、公的資源の活用中を広げる制度改革

これらについて、両者の間でより一層の話し合いがなされ、工夫や制度の運用というレベルから、制度の改正への道筋を開くというレベルに、取り組みをステップアップされることがよいと思いました。

#### (協働を推進する拠点として)

市民活動センターは17分野を視野に入れているということで、「協働を推進する拠点」としての役割も期待されていることと思います。

- (1) 市民に向かっては、分野別の中間支援ネットワークとの連携を進めていくことで、一層の広がりを獲得することになると思います。
- (2) 行政に向かっては、各部各課で進めているであろう協働事業もふまえて、行政の協働事業の取り組みの普及や、行政として協働を推進していくための施策立案といったことも考えていく時期が近々来るだろうと思いました。

#### 4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

この伊勢市での取り組みは、「市民活動の中間支援センターを指定管理者制度を使って地域のNPOが運営する」という先進的な事業です。企画の立案、運営者の指定の仕方、協定書の内容、現実の運営の工夫、収入の確保などなど、課題のたいへん多い事業に、市民も行政も手探りで進めながらすばらしい成果を出している取り組みと感じました。他の市町村にとっても学ぶことの多い取り組みであり、伊勢市内外の多くの人たちが注目していることと思います。

それだけに、伊勢の「市民力」、「行政力」が問われます。成熟した市民と変わろうとしている行政とが、新しい自治のあり方を模索する姿を見せていただいた思いです。気になるのはそこに市民感覚を残していけるかどうかです。NPOの専門性を発揮しつつ、市民としての感覚が活かされるような市民活動センターでありつづけてほしいと思いました。

そのための私からの提案が、「運営費用の拡大」と「多くの人々の理解を得る」ということでした。これは「鶏と卵」のような関係なので運営当初がいちばんたいへんですが、ある分岐点を越えれば急速にひらけてくると思います。関係者のみなさんのがんばりに期待したいと思います。